

祝！こどもとむしの会設立10周年

宮武 頼夫¹⁾

こどもとむしの会の設立10周年、誠におめでとうございます。まず水害による大被害にもめげず、今日の佐用町昆虫館を支え、内外での諸活動を続けてこられた役員やスタッフの皆さんに、心からご苦労様と言いたいです。本当にありがとうございました。その間に私はどのように関わってきたのか、振り返ってみたいと思います。

一番熱心に取り組んだのは、昆虫館での「こども昆虫道場」の講師としてでした。私の専門分野から、「セミのぬけがらしらべ」、「バッタのオリンピック」、「アサギマダラのマーキング」の3つを担当し、「アサギマダラのマーキング」は2回、「バッタのオリンピック」は3回やりました。奈良県橿原市に住んでいる私にとって、昆虫館へ行くのがまず最大の難関でした。暗い内に起きて、近鉄、環状線、地下鉄と乗り継いで、大阪の千里辺りから車に乗せてもらって、中国道を延々と西下し、昆虫館へ着いた頃にはぐったりしていました。その後それでは大変だろうと言うことで、大阪から新快速で姫路まで行き、内藤先生の車に乗せていただいて昆虫館へ運んでいただき、とても楽になりました。

最初の昆虫道場は、2010年8月8日(日)の「セミのお話とぬけがらさがし」でした。午前中は1時間くらいセミの生活や抜け殻の見分け方の説明をして、昆虫館の周辺でお昼頃までぬけがらをさがしました。大阪でぬけがらさがしをするとクマゼミのぬけがらばかりですが、さすがにここではアブラゼミやヒグラシのぬけがらが多く、ミンミンゼミのぬけがらも見つかりました。昼食後はぬけがらの見分け方をもう一度説明して、各自採集した抜け殻を見分け、標本にしてラベルをつけて持ち帰ってもらいました。夏休みの自由研究になったかな？

次は「バッタのオリンピック」で、2010年10月10日(日)、2012年10月14日(日)、2013年10月10月20日(日)の3回行いました。午前中は1時間ほど、バッタの分類や見分け方の説明をして、お昼まで付近を自由にまわってできるだけ沢山のバッタをつかまえてもらって、昼食後は各自が採集したバッタの種類分けをして、「むしむし広場」で種類ごとにオススメに

わけて飛ばしっこ競争(オリンピック)です。各種目の優勝者には、ドングリで作ったメダルが渡されました。昆虫館は山の中にあるので、近くには田んぼ以外の草原や広場がないので、大形のショウリョウバッタやクルマバッタモドキはいるのですが、残念ながらオリンピックで一番よく飛ぶトノサマバッタがまったくいないのです。それで、奈良の藤原京で採集したトノサマバッタを室内で飛ばして見せて、いかに良く飛ぶか見てもらいました。オリンピックは主にオンブバッタやコバネイナゴなど小形のバッタだったので、盛り上がりには欠けましたが、子どもたちは楽しんでくれたようでした。

「アサギマダラのマーキング」は、2011年10月9日(日)と、2012年10月12日(日)に行いました。午前中に1時間ほどアサギマダラの生態や、渡り鳥のように日本列島を南北に季節移動する状況やマーキングのしかたのお話をして、昆虫館の周辺でアサギマダラを捕まえてマーキングしてもらいました。アサギマダラはそこそこ飛んでいるのですが、高い所を飛んでいたり、遠くの谷向こうを飛んでいたりするので、白いタオルを回して呼び寄せる方法もトライしてもらいました。捕まえたアサギマダラはほとんどメスばかりでした。付近には幼虫の食草のキジョラン(毒草なのでシカが食べない)が茂っているので、それに産卵する(した)ために飛び回っていると思われました。ということは、ここでメスを捕まえてマークしても、もう遠方へは移動しないのかとも思われます。驚くべき事に、10月9日には、遠方でマーキングされた個体の再捕獲がありました。小学生の石原彩代さんがタオルキャッチで捕まえたメスに、「ほうだつ 9/14 EIKO 50」(図1)のマークがあったのです。これは石川県宝達志水町宝達山で橘 英子さんが、9月14日午前11時6分にマークしたものでした。なんと25日かけて280kmも南西に移動してきたのです。最近インターネットが普及してきたので、マークされたアサギマダラが見つければ、すぐどこでマークされたか分かるので便利です。

¹⁾ Yorio MIYATAKE NPO 法人こどもとむしの会



図1 石原さんが採取した石川県から移動して来たアサギマダラ (♀)



2014年5月6日(火、祝)、神戸大学で「ムシのお話 5つ星レストラン」が開催され、私は竹田先生から依頼されて、「アサギマダラの海渡り」という題で、アサギマダラの生態や海を渡っての季節移動について、お話をしました。もちろん佐用町昆虫館の近くで石原さんが石川県からの移動個体を捕まえた話や、他の年に竹田先生や清水さんが福島県や長野県から移動してきたのを昆虫館で捕まえた話もありこみました。佐用町昆虫館のあたりは、アサギマダラの移動調査をするのにもってこいの場所なんですね。

2012年8月11日(土)には六甲山自然保護センターの環境学習プログラムの一環として、「氷河時代の生き残り、エゾゼミを観察しよう」という行事がこどもとむしの会の指導で開催され、私は講師として参加しました。午前にはセミの分類や生態、ぬけがらの見分け方などをお話しして、昼過ぎまで2手に別れてセミの観察やぬけ

がら集めをしました。エゾゼミもあちこちで鳴いており、ぬけがらも見つかり、岡本さんが採取した生きたエゾゼミをみんなで手に取って観察することができました。アブラゼミをはじめ、ヒグラシやミンミンゼミのぬけがらも見つかりました。昼食後には各自集めたぬけがらを分類して、標本にすることができました。

昨年(2018年)の6月16日(土)には、橿原市昆虫館でこどもとむしの会の総会が開かれて、遠路はるばる会員が集まりましたが、遠かったからかあまり人数は増えませんでした。会議の前に裏の里山「南山」の観察ルートを回って昆虫観察をしました。ちょうど奈良県でもレッド種のウラナミジャノメの1回目の発生時期だったので、個体数もかなり見られ、八木さんや池田さんほかに撮影・採取していただきました。地元で総会をして下さったので、私も参加できてとても嬉しかったです。

こどもとむしの会の今後の益々の発展をお祈りします。